

研修で
学校が
変わる

中堅教諭等資質向上研修③ 特別支援教育ステップアップ研修① まとめ 特別支援教育支援員研修② (選択A) 学校司書研修 (選択A)

令和2年8月17日(月) Web会議による遠隔講義

「愛着形成に関する基本的な考え方と 支援のあり方」

講師 玉井 邦夫 氏 (大正大学 教授)

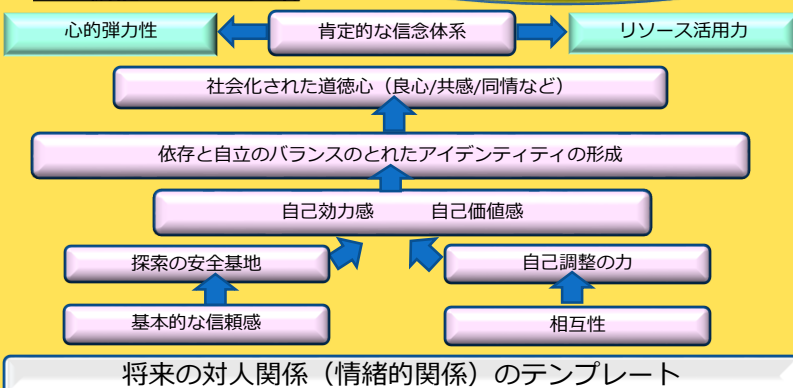


【研修のねらい】

■ 愛着形成の基本的な考え方や支援の在り方について理解し、実践に活かす。

心理機能としての愛着

人間関係の構えの部分



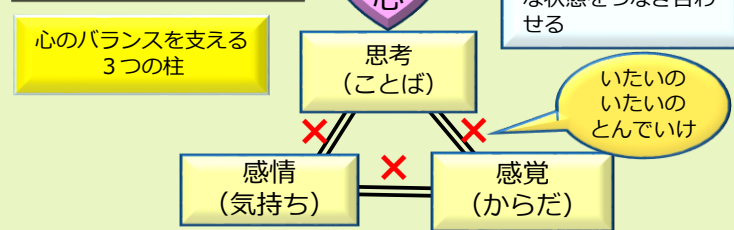
愛着をどうとらえるか



- ◆ アカゲザルの正常化
「大人ー子ども」の愛着システム
「子どもー子ども」の愛着システム
→両システムが必要
→養育者不在の時
なかまの存在は常に適切な愛着対象
- ◆ ソーシャルネットワーク理論
愛着にはCaregiver (たいていは母親) との愛着だけではなく、他にも独立した愛着システムがある

なかまの存在

愛着障がい行動の崩れ



学級集団崩壊のダイナミクス

- ・常に同年齢の子どもがいる
 - 最大の「ネック」であり「強み」でもある。
 - ・「Noisy」な子ども→被虐・発達障害等
 - ・「尻馬」群の子ども→家庭・学校で居場所が希薄
- Point!**
- ・「もちこたえ」群→肯定的な評価で認め合う集団づくり

統制困難群

なかま同士の間で支え合う愛着の関係

【受講者の受け止め→行動へ・・・中堅教諭・通常学級担任】

- ・教育相談で保護者と面談等する際に、どうしてもゴールを家庭に投げかけることが多かった。この研修で学んだことを生かして、学校でできる愛着育成の視点を保護者に示し、家庭と学校がつながって児童の育成にむかえるようなゴールを設定したい。
- ・担任として、子どものケアギバーの1人となれるよう、日々の肯定的な声かけや触れ合いを改めて大事にしていき、自己肯定感を高めていきたい。
- ・講義の中で出てくる言葉の使い方、表現の仕方が参考になった。普段、行動そのものにだけ目を向けて「～してはいけない」「ダメ」というふうで否定してしまっていた。気持ちを聞いて、モデルを示す、またその子供を批判しない言葉かけをしたい。また、その間に待っていている「もちこたえ」群をしっかりフォローすることを意識したいと思う。

【受講者の受け止め→行動へ・・・特別支援教育支援員】

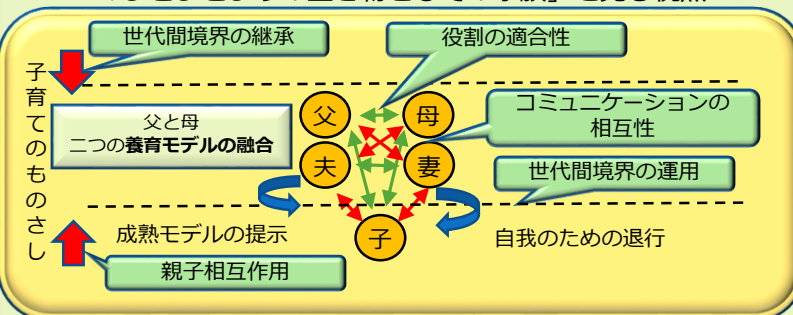
- ・心を支えている柱が一つでも欠けるとバランスが保てなくなることが分かった。感情に働きかけられる言葉かけや行動を考えながらどのようにこころの三角形を保つか、日々の支援に生かしたい。
- ・学級集団崩壊のシミュレーションが分かりやすかった。そうならない為に、「もちこたえ」群の子達を支えながら支援したい。

【受講者の受け止め→行動へ・・・図書館司書】

- ・学級集団の「もちこたえ」群への声掛けを意識して行いたい。
- ・生徒の言動を見えるところだけで判断せず、そこに隠れていることを理解するように努めたい。
- ・図書館に来館した生徒に対応する際に、より良いケアギバーになり、生徒と少しでも良好な関係を築いていけるように努めたい。

家族システム

～「ひとまとまりの生き物としての家族」を見る視点～



養育の中で生じる問題

最終的には夫婦間のコミュニケーションチャンネルが機能しているかにかかっている。

愛着形成過程の歪み

虐待的養育
世界と大人への
不合理な防衛

学校でも
虐待環境への適応

- ①理解はできるが受け止めがたい行動
- ②理解に苦しむ逸脱した行動
- ③年齢不相応な未熟さとアンバランスさ